数年にわたって世界の人々を苦しめた新型コロナウイルスの感染も一段落、今回の日本福祉文化学会第34回全国大会“東京大会”は、たくさんの制約を受けた生活を超えた今だからこそということも考えて、もう一度“福祉文化”を問い直す意味で「“自分らしく生きる”を尊重しあう福祉文化の創造」をテーマとして開催することにいたしました。
1日の開催ではありますが、久し振りに会場に集まっての開催となりますので、おおいに学び合いましょう。

10:00 **研究発表**

12:00 昼食休憩

13:00 **開会式・福祉文化実践学会賞披露**

13:20 **基調シンポジウム 自分らしく生きる～共感力でささえあう舞台があれば人は輝く～**

コロナ禍の中で、様々な制限を受けることで「自分らしく生きる」ことが大きな制約を受けることになった。その中においても、「共感力」をもってささえあうことで、生きづらさを克服し、「自分らしく生きる」ことを目指してきた3人のシンポジストに話を聴くことで、これからの時代にどのようにすれば、「自分らしく生きる」ことが、ひとつの文化として尊重されるのか、その方向性を探る。

〈コーディネーター〉 馬場清(東京おもちゃ美術館 副館長)

アオキ裕キ
(ダンサー振付家・ソケリッサ)
写真:河原剛

加藤康士
(公益社団法人やどかりの里)

菅原由美
(全国訪問ボランティアナースの会 キャンナス代表)

15:00 **分科会**

分科会①
子ども
～子ども食堂の実践を通して～

子ども食堂での子どもの貧困の課題と向き合う実践や、障害者雇用の就労支援の事例から、子どもの貧困や子どもの権利についての理解を深める。

山田ちづ子(みな風地域食堂代表)
江藤千恵子(埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園教諭)
〈コーディネーター〉 塩田公子(児童発達支援・放課後等デイサービス はぐみー)

分科会②
地域と児童文化
～「地域」とつながる保育士養成校の試み～

地域文化資産をつなぐ活動や、学生の表現活動を通した地域とのかかわりの事例から、「人」が行う「表現活動」が、人と地域を紡ぐということを、実践の映像などを通して考える。

二木秀幸(静岡福祉大学)
中村光絵(和洋女子大学)
宇杉美絵子(昭和学院短期大学)
元学生
〈コーディネーター〉 藤原明子(星美学園短期大学)

分科会③
自分らしい終末期を迎えるということ

「此処は仮の宿、最期は家で迎えたい」という高齢者の願いを尊厳と同様重く受け止め、訪問看護のスペシャリストからさまざまな事例を伺い、患者と家族を支える方策を考える。

菅原由美(キャンナス代表)
西谷咲希(キャンナススタッフ)
卯月 文(フリーランサー)
〈コーディネーター〉 小沼 肇(元小田原短期大学)

分科会④
東日本大震災の伝承・復興から福祉文化を考える

東日本大震災の際に大きな被害を受けた地域をめぐる現場セミナーを踏まえ、震災から10年以上たった今、「伝承」「復興」の到達点と展望について考えたい。

小池和幸(仙台大学)
東北ブロックメンバー・学生有志
〈コーディネーター〉 篠原拓也(田園調布学園大学)

16:30 **閉会式**

※プログラムについては、変更することがありますので、ご了承ください。詳細については日本福祉文化学会ホームページに掲載する予定です。
https://nihonfukushibunka.net/#gsc.tab=0

自由研究発表申し込み

締切日:2023(令和5)年11月9日(木)17時(時間厳守)

日本福祉文化学会ホームページを参考にして、「研究発表申込書」「要旨集」を、メールまたは郵送にて、下記までお送りください。
【研究発表申込先】 ※封筒の表、メール標題に「日本福祉文化学会研究発表申込」と明記してください。
〔メール〕 maejima-ge@tokyorissho.ac.jp
〔郵便(USBまたはCD-Rデータ送付 ＊当日返却いたします。)〕
〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内2-41-15東京立正短期大学 現代コミュニケーション学科 前嶋元宛